

男が何かを 産み出す年

吉田 啓正



△神戸市立須磨海浜水族園長▽

タツ年。十二支のうち一度だけ水族館が出番となる。タツノオトシゴが正月の主役になるからだ。

タツノオトシゴとは実に乙な名前だな、といつも感心している。天空を駆ける神にも似た竜(タツ)を父とする落し子。浅い海の藻の蔭にひそやかに暮してはいるが、その顔には誇り高き父親の面影を宿している。そこへいくと、英名の Sea Horse(海の馬)、中国名の海馬(ハイマー)。日本にもキタノウミウマというのがいるが、面構えが馬に似ているというだけのことで何とも味気ない。

タツノオトシゴはヨウジウオ科に属している。ヨウジウオには尾ビレがあるがタツノ

オトシゴにはない。彼等は細くなつた尾の先をクルクルと海藻に巻き付けて立つてゐる。もつとも、タツノオトシゴの親戚筋には、首は普通のサカナのように体の前に真つすぐに着いていて、尾を藻に巻きつけて斜めになつてゐる奴もいる。妙なサカナだ。その名をタツノイトコという。

タツノオトシゴはオスが子供を産むことでも有名である。もちろん卵を産むのはメス。メスはオスのおなかの所にある育児のうという袋に卵を産み付ける。と、メスはサババとした顔をしてあつちへ行つてしまふのだ。卵は袋の中で受精する。それから先、親父のおなかは次第に膨らんで、一ヶ月もすると臨月。い

オトシゴにはない。彼等は細くなつた尾の先をクルクルと海藻に巻き付けて立つてゐる。もつとも、タツノオトシゴの親戚筋には、首は普通のサカナのように体の前に真つすぐに着いていて、尾を藻に巻きつけて斜めになつてゐる奴もいる。妙なサカナだ。その名をタツノイトコという。

タツノオトシゴはオスが子供を産むことでも有名である。もちろん卵を産むのはメス。メスはオスのおなかの所にある育児のうという袋に卵を産み付ける。と、メスはサババとした顔をしてあつちへ行つてしまふのだ。卵は袋の中で受精する。それから先、親父のおなかは次第に膨らんで、一ヶ月もすると臨月。い

よいよ「妊父」の出産が始まることもある。産氣に立会つたことがある。産氣付いた父親は、体を岩にこすり付け、くの字になつてけいれんする。まさにその時、親そつくりの形、まるで鬼ボーフラのような子が一匹きボイと飛び出す。子供は、もう一人前に泳げるようになつてゐた。この七転八倒の苦しみはしばらく続く。そして、一〇〇から一五〇匹の子供が産み出された。

ヨウジウオの仲間は、なぜかオスのおなかに卵が生み付けられ、オスが子を守るよう運命付けられている。だが、卵をすつかり袋の中に取り込んで、オスが産みの苦しみと喜びを知つてゐるのは、動物の中でタツノオトシゴの類だけである。……と思うと男に生れた者として何かひつかかる。

タツ年。まさか人に生れて男が子供を産むわけにもいくまい。だが、産み出す何かに挑戦してみよう。そんな風に思つたりする正月である。

■ 隨想三題

春 節

黄 棟和



△南京町商店街振興組合青年部部長▽



春節と呼ばれる中国の旧正月、今年の第2回目は2月18日～21日の4日間、神戸南京町及び周辺地域の協力でくり広げられます。

ちなみに昨年の第1回目は1月29日～2月1日の4日間通算すると約30万人の人が訪れました。他ならぬ地元商店街の皆様の協力と各方面団体の支援を得て成功したと思つています。在日華僑の旧正月行事は、年々時代の波に押され、さびれる一方でした。

一昨年、南京町の五熊氏が発案され、青年部を結成し南京町元町を含めて地域活性化を図るため南京町振興組合理事長（生島敏彦）が中心になり実行委員会を組織しました。そして、イベントと露店

を重点に置き、10数回にわたり会議を重ね、どうにか第1回春節祭を迎えたわけです。

さて、昨年の春節祭を思い出して、公園内では各界より多数の来賓を招き春節祭を開催するにあたって――。

私は東の長安門より通りを歩いてみると、店頭を飾る赤い正月飾り「福の紙赤いちょうちん」が、道路の両側には露店が並び肉まん、大根もち、揚パン、バーベキュー、おでん、そして中国粥……さまざまな食べ物の店が見うけられます。景気よくはぜる爆竹の音、獅子舞のいぎやかな動き

ます。ドラの音と共にあの南京街名物巨大な龍、約40メートルがだんだん私に近づいて来ます。そして爆竹、太鼓、ド

ラ、シンバルが一気に鳴り出しますと、所せましと左右に踊り多かったことだろうが、この日の人出は大変なもので正月情緒は満点、公園内で小林寺拳法、中国舞踊、大極拳、次々と演出されました。

祭りの後で反省会を開き、商店街全体が団体となり第1回目としては成功したと思っています。難を言えば、初めてのことだったので連絡の不徹底、タイムテーブルの告示など非常に満足、4日間共好天気に恵まれ事故もなくラッキーでした。ゆくゆくは、神戸の地区祭にまで持つていったい……。

そして今年は辰年で香港より雌の龍が来て春節祭には龍の結婚式が披露できると思します。祭りの日を絶やさないように毎年開催していきたいそして今年新たに「南京町通り」が春節祭に加入し街の人も舞龍隊に混じり一緒に龍を踊つてみませんか。

ウエスト・リバーブラザースのこと

西川 由季子
ハイラストレーター



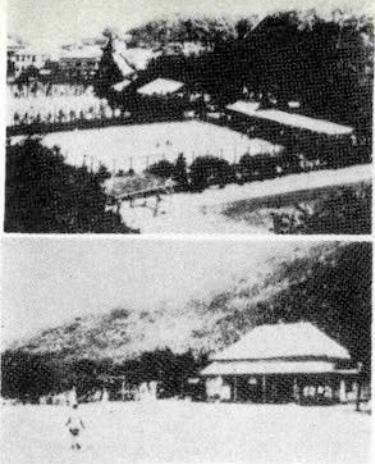
「ウエスト・リバー・ブラザース」というミニコミを作っている。幼い頃からの雑誌好きが昂じて始めたのが六年前。編集はズーッと一人でやつて来たが、これまでに実に多くの方々に原稿を書いていた。一言でいえば、「関西発のごちゃくら雑誌」。

映画、音楽、美術を中心に、マイナー、メジャーという区別にこだわらず面白い物をどんどん探して紹介していく。という雑誌だ。どうせやるなら、既成の雑誌から取つてきたトピックスを焼き直すのではなく、自分で街に出て何かを見付け出したいものだ。高校生の作った8ミリ映画とか、渋い洋書の写真集、音楽雑誌がまだ見付けていない音の数々、といった家に閉じ隠

つていては決して得られない面白いものが結構ころがつている。そういう意味では、この作業は編集というよりは寧ろコレクションと言つた方が良いかもしれない。勿論、ただのコレクションで終わつてはつまらない。いろいろな事物に触れて、それをアレンジし、一つのトータルなイメージを持つ「作品」にしなくては。それにミニコミとはいえ、時代の流れには敏感でいたいし、単なる自己満足ではつまらないから、読み手のことをある程度踏まえた本作りをしなくてはいけない。そんな点で、雑誌作りはイラストレーションを仕上げる作業にとてもよく似ているのだ。そもそもイラストレーターなどというものになりたい、などと思い始

めたのもこの雑誌が切つ掛けなのだ。創刊当初、書き手がなくて自分でカットを描いていたのだが、何もかも自分で書いたのがしんどくなつて来た。編集後記に誰かかわりに書いてくれませんか、と書いたところ、「西川さんのイラストが好きなので続けて下さい」というお便りが来た。もともと、おだてられると調子に乗る性格の私は、いっぺんにその気になつてしまつた。単純だということは恐ろしい。そんなわけで私はイラストの学校へと通い始め、そして相変わらず、何もかもを自分一人でやつてしまつてゐる。

谷川俊太郎氏の「手紙を書くように詩を書きたい」という言葉を真似て言えば、これからも、「一枚の絵を描くようになら、ほんの少しでも共感してもらひ、今まで無関心だった事柄にちょっとでも興味を持つてもらえたらしいな、と密かに願つてゐる次第だ。



大正頃の雲仙テニスコート（上）とゴルフ場

地域文化論

△
その
100
△

雲仙 \leftrightarrow 六甲山(有馬) \leftrightarrow 輕井沢(淺間山・草津)

国際リゾート地の先進地比較

水谷穎介／都市計画家・建築家／

ど、福岡は六甲山、広島は太田川など、福岡は博多湾(海)、という三題が、3つの都市比較論からみた、自然環境の基層だと考えてきた。この「六甲山」という神戸のシンボルについて、雲仙、輕井沢を最近訪ねてきて、もう一つ加えたくなつたテーマが、国際リゾートの先進地である。

正2年(1913)9ホールが県営で完成、同時に県営テニスコートも開設された。昭和にはいると、外賓客は年間2万人を超え、昭和9年(1934)これまた我が国最初の国立公園に指定された。そして、翌年に現在もそのままの姿で営業している雲仙観光ホテル(当初は県営)が落成した。

六甲山にアーサー・グルームが別荘を建てたのが明治28年（1895）で、4ホールのゴルフコースを開いたのが明治34年（1901）である。グルームが、長崎のグラム、パー商会から神戸に派遣されてきたのは明治元年（1868）、横浜へ一時出かけていたが、明治22年

(1889)に再び神戸へ帰つてきて六甲山を関西の軽井沢にしようとした。その以前明治8年頃

正2年(1913)9ホールが県営で完成、同時に県営テニスコートも開設された。昭和にはいると、外賓客は年間2万人を超え、昭和9年(1934)これまた我が国最初の国立公園に指定された。そして、翌年に現在もそのままの姿で営業している雲仙観光ホテル(当初は県営)が落成した。

ずつ違っている。長崎はその立地から上海・香港・ロシアなどの要因から避暑客と直結していたし、温泉開発と一体化している。神戸はオリジナルホテルの運営にもあたつたグルームなど居留地の外国商社活動とのつながりから始まり、阪急・阪神の私鉄経営地の一環として庶民化した。輕井沢は創始者の2人の人脈以来、明治の元勲達や東京の名士達とのつながりが今だに色濃くつづいているので、私には興味はあるが好きになれない。

(1895) 亀屋旅館が万平ホテルとして洋式に改築・改名、7年後には櫻の沢の2万坪の敷地に純洋風のホテル新築、現在の本館は昭和11年(1936)である。

雲仙、六甲山、軽井沢の背景は、長崎、神戸、横浜共通の開港だが、最近のリゾート法ブームなどにみ

から、外人たちは、アイスロード（袖谷道）などをハイキングしていた。そうだが、雲仙では、慶応3年（1867）にイギリス人2人が許可なく登山して捕えられ長崎へ護送されたという記録があり、明治10年頃からは外国人避暑客が増加して、新湯の創設と前後して小地獄とも外国人向けの旅館（例えば純

(1895)亀屋旅館が万平ホテルとして洋式に改築・改名、7年後には櫻の沢の2万坪の敷地に純洋風ホテル新築、現在の本館は昭和11年(1936)である。

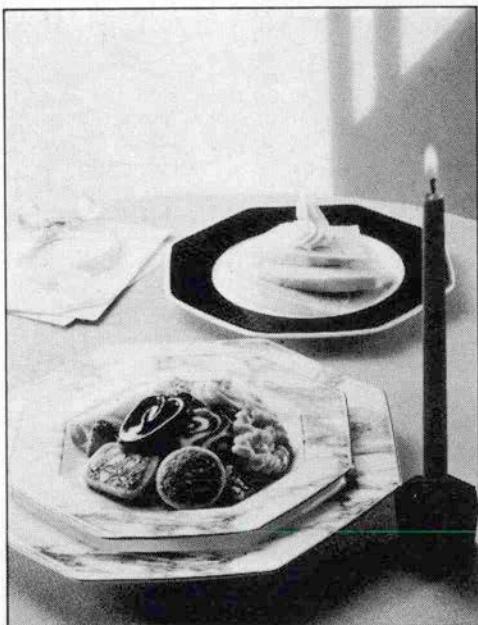
をひきついでいて、昭和5年には六甲登山架空索道KK設立、昭和7年に土橋—山上間のケーブルが開業した。

Juchheim's
Der große und kleine Fleischhauer
Seine Produkter am Markt
Seit 1881

謹賀新年

Ein gutes Neues Jahr!

1988'



ユーハイム



拝啓カシミヤ美人殿
カシミヤは、着こなしの鏡。

やわらかく、軽く、暖か。カシミヤは、これからシーズンに欠かせない素材です。しかし、すばらしい長所には、より大きな短所もつきものです。カシミヤの場合、●シワになりやすい ●スリップ、キズに弱い ●形くずれしやすい ●毛玉ができるやすいこれらの短所は、いわば優雅にやさしく着てくださいという素材自身のアピール。着る前のチェック、着た後の手入れは、カシミヤ美人の常識です。



Since 1933

■大阪支社/06-853-1332 ■つかしん店/06-420-3754 ■ローブ・ニシジマ/078-332-2440
■山手店/078-221-2440 ■宝塚店/0797-72-0810 ■リフォーム・フルフル/078-221-9110

月刊神戸つ子主催△第12回▽

神戸文学賞発表

昭和五十一年、小説は創刊15周年記念事業として、作家を志す有為の新人に新しく道を開くために「神戸文学賞」および「神戸女流文学賞」を創設いたし、昨年第11回より、さらなる質の向上を図るために「神戸文学賞」に一本化し、作品募集地域を西日本より全国にさせていただきました。第12回作品募集は、昨年9月末に締切り、全国各地から多数の応募作が寄せられ、別記の選考委員により最終選考を行い左記の作品が第12回の受賞作・佳作と決定しましたのでここに発表いたします。なお授賞式は昭和六十三年一月十四日(木)午後六時より神戸月堂ホールにて行います

□神戸文学賞受賞作品

「夢食い魚のブルー・グツドバイ」

釜谷かおる△かまたに・かおる▽

△略歴▽

昭和31年生。神戸女学院大学卒。中学校講師勤務

後、フリーライターに。主婦業の傍ら創作活動を続

ける。元「隨筆こうべ」同人。高砂市在住。

私たちの世代は、モラトリームの世代といわれて、もう少し上の世代の人達のように団塊・全共闘等の体験がありません。そんな世代の青春小説が書けたと思います。

「朝顔」
「夢食い魚のブルー・グツドバイ」
「凌雲寺に吹く風」 中村鶴子
「どうせ飛べないカモメだね」 仲山清
「靴」 西本衣江

□最終選考候補作

小林英子
釜谷かおる
△函館市▽
△高砂市▽

△受賞の言葉▽
私たちの世代は、モラトリームの世代といわれて、もう少し上の世代の人達のように団塊・全共闘等の体験がありません。そんな世代の青春小説が書けたと思います。

□神戸文学賞佳作「靴」西本衣江△にしもと・きぬえ▽

△略歴▽

明治45年生。明石女子師範学校卒。39年間の教員生生活を経て現在読売神戸文化カルチャードラマにて文学を学ぶ。「文学む」同人。神戸市在住。

△受賞の言葉▽

全く予想もしていませんでしたので、喜びよりも驚きが大きかったです。随分懶をとつてから始めたわけですが、文章を書くことで若返った気がします。これからも頑張って書き続けたいと思っています。

□選考委員 杜山
武田芳一 悠
鄭承博

主催 月刊 神戸つ子

●第十二回神戸文学賞受賞

釜谷かおる

かまたに・かおる／フリー／ライター

センシブルなフリー・ライター

昨年度より「神戸文学賞」「神戸女流文学賞」が「神戸文学賞」に一本化された。その第二回目の受賞者である。神戸女学院文学部卒業だが、大学時代も、卒業してから勤めた中学校の講師時代も、小説を書いたことがなかった。しかし、昨年急逝された川端柳太郎・神戸大教授の文化教室に入り、文学に開眼。中学校講師を辞めた後、フリー・ライターとして、朝日新聞、神戸新聞等に執筆。一九八三年に、雑誌「ノンノ」で公募されたフリー・ライター大賞を受賞。しかし、それと前後して結婚。出産、育児に追われながら執筆活動を続けるが、なかなか時間がとれず、今度の受賞作も、子供の昼寝の時間等を利用して書いた。受賞作は、色々と教えを受けた川端先生の追悼の作品でもあると言う。女性の持つ鋭い感受性を生かしたこの受賞作に、天国の川端先生も満足していることだろう。

（神戸旧居留地にて）



神戸という街をもつとエキサイティングに、そして、いきいきとした盛り上がりをつくるために。

劇場都市・神戸。

現代、それは「美・感・遊・創」の時代。ますます、文化が主導の時代が押し寄せてきた。

六甲連山に囲まれ、海と港が迫る、坂の街・神戸。

春夏秋冬、海が光り、風が渡る街・神戸。

舞台としてはまず申し分のないロケーションだ。

シナリオがあつて、演出家がいて、舞台装置家がいる。出演者が縦横に熱演して、観客を魅了する。

そこに、めくるめくような“究極の感動”がある。

市民性豊かな神戸は、多様なイベントを成功させた。イベント都市の先駆者であった——神戸。

いま、大きく羽搏くコンベンション都市神戸。

もうひとつ、文化に深味を加えるよすがとして劇場都市・神戸。街は生きた劇場だ。

さまざまなドラマがダイナミックにはじける。

街がシアトリカルになることはいいことだ。

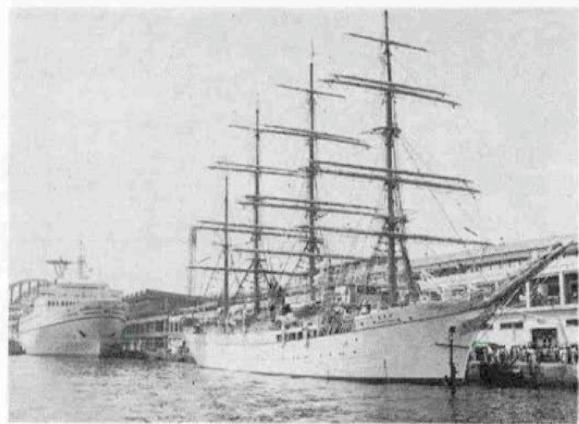
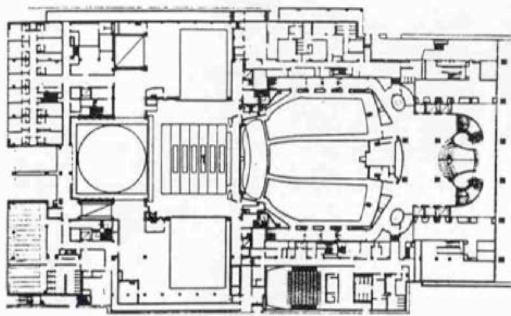
新しく変えるために、大胆に劇場都市・神戸。

独創的な演劇が神戸から発信されるのはすばらしい。

神戸の街から、独自の文化が多彩に放射される。

そこに限りない魅力が生まれ、人が集い、群れる。

獨特の文化を誇る街、それが世界に通じる道になる。



★新春特集／神戸・劇場都市への可能性を探る〈その1〉

演出家

蜷川 幸雄



雪のあしたに陽はまた上る のぼ 活性化への花道となるか

「NINAGAWA・マクベス・ロンドンの喝采」「シェークスピアの固定観念を破る・衝撃不動の評価」

これは昭和62年9月に「マクベス」の本場、英國の伝統ある国立インター・ナショナル・シアターでの公演における演出家・蜷川幸雄氏に贈られた絶賛の言葉でした。

誇り高き英國人をかくも熱狂させ度胆をぬいた「マクベス」。その蜷川氏が、いま寸暇をさいて神戸の街を探訪しています。なにゆえの探訪なのでしょうか――。

出発点です。このエネルギーある限りよい芝居ができます。それを省略するようになると体力、気力、発想に衰えが出はじめた証拠です。まだまだ大丈夫のようです。

大きな眼玉がぎょろりぎょろり、稻妻のように銘く光り輝やいている。

―― いま劇場都市化論が叫ばれています。街全体を劇場に見立て活性化を図ろうという発想です。もともと神戸はイベント主導型で成功してきました。大阪の御堂筋パレードも「神戸まつり」がルーツです。神戸ポートピア81博、ユニバーシアード、そして89年のフェスティックへと続く訳ですがさらに劇場都市化で活性化しようとして南京街があつて神戸ビーチにパン、ファッショント、神戸はじめはじめ物語の街、世界に開かれた街、魅力いっぱい、とにかく歩き回っていきますよ。

―― なぜですか、何を求めて――

蜷川 つかむんです。手をぬくとよい芝居はできません。人々の表情を、人の流れを、何を語り何を求めているか、においを体全体でかぎとる。これが芝居の原点だし

―― 都市を舞台と想定し、シナリオがあつて演出家がいて出演者がいて観客がいて、活性化のための演劇的方法といいますか、それをどう生かし応用するかという

蜷川 あつ!! という芝居を作つて京阪神は勿論、西日本からわんさと観客がくる。それも一つの活性化でしょう。

東京芝の増上寺を舞台背景として「王女メディア」をおやりになりましたね。クレーンで大きな月をつりあげたりして――。

蜷川 あれはまたまあそこが舞台装置にぴったりの建物でしたから。神戸にも使える建物があれば結構ですね。

「マクベス」のロンドン公演は絶賛でしたね――。

蜷川 こんなに美しく面白くみせてくれたのは初めてだと賞められました。スエーデン、ソ連、西独、それに私の四カ国が招待されたのです。スエーデンは「令嬢ジュリー」をもつてきました。「王女メディア」と「マクベス」の二本もつてきました。「マクベス」の本場ですから話の内容はよく知っています。それをどうみせ

るかですね。桃山時代に置きかえてやつた訳です。七回とも超満員でした。

―― 仏壇をどかっとすえたのはびっくりしたでしょう。 次はいよいよ「NINAGAWA忠臣蔵」ですね――。 次はいよいよ「NINAGAWA忠臣蔵」ですね――。

蜷川 少しの異和感もなく力強い刺激を与えたといわれました。それにタキシードで観客も豪華でした。若い人は天井桟敷でみていましたが。

―― やはり体力が衰えるどころじやありませんね(笑声) 新神戸駅前の新神戸オリエンタルホテルのこけら落しに「忠臣蔵」を上演される予定のようですが、中内功会長との出会いは――。

「あつ」という芝居をつくる。それも一つの街の活性化でしょう」と蜷川先生

蜷川 ロンドン公演のスポンサーを探していましたら中内会長が応援してやろうと。初対面でした。食事をしたのですがお互いに柄にもなく緊張して黙々とたべていました。しばらくたって話し合うとなつかなかの文化人で。ゴジラとモスラの出会いでしたね(笑声)。なんでも東京中心ではいかん。神戸発信の演劇がつてもいいじゃないかといつたんです。すると中内会長に

ここにこして賛成（笑声）シャイな人ですからね。

—— にここにこは何も中内会長だけではなく神戸人ならずべて大賛成です。ではなぜにいま「忠臣蔵」ですか——。

蜷川 国民的文学だからです。年令層が広いでしょう。

近くに「忠臣蔵」の故郷もありますしね。立派な古典として残っている訳ですから歌舞伎と違った面白さを出さないとね。少なくともベジャールさんがバレエ化された「ザ・カブキ」よりは面白いものになります。神戸を歩いていて感じたのですが三宮から新神戸駅の間がもっと美化されると思いますが。

—— フラワーロード花道論がありまして、「神戸まつり」はここらが舞台となりますので、新神戸駅辺りまで延長したらと提案しています。おっしゃる通りホテルまでを花道として大勢の人が劇場へつめかけてほしいですね。桜の頃は川の両側が桜並木でそれこそ桜花道そのものです——。

蜷川 それなども活用して演劇が街の活性化のお手つだいになればね。「近松心中物語」で近松を、「マクベス」でシェークスピアを、こんどの「欲望」でテネシー・ウイリアムズに挑戦しましたから次は「忠臣蔵」への討入りです。

—— お芝居をみた後、楽しみながら食事をし、おしゃべりができる雰囲気がほしいですね——。

蜷川 外国ではそれが常識ですから神戸をそういう街へ没入する。とにかく遊ぶときは徹底して演劇の世界へ没入する。すべてを忘れて他人の人生をのぞいてみる。演劇の空間に浸つてみるのも楽しいですよ。そういう「忠臣蔵」を作つてみますよ。

—— 主役の俳優さんなど腹案はござりますか。

蜷川 あけてびっくり玉手箱です（笑声）。みてよかつた。楽しかったという神戸発信の芝居をお目にかけます。といってそんなに奇手奇略がある訳ではありませんが、神戸の街を探訪し回つて何かをつかめるでしょう。それにたびびっくりさせればよいというものでもあります。「近松心中物語」の雪にしてあの息をのむ雪がラストをひきしめ興奮をもりあげていると思います。演劇的にどう効果を発揮するかです。「忠臣蔵」上演までに期待されるようなものをまとめてみますよ。さつきわれた桜並木の花道論ですね。芝の増上寺を舞台背景としてやりましたように神戸の街の建物など使つて面白い演出ができるばやつてみたいですね。

—— ロングランシステムはいかがですか。

蜷川 外国ではこれも常識化されロングラン興行の場合出演俳優が交替しますね。それがまた人気を呼びます。ところがわが国の場合まだ定着していませんね。その人でないといけないような感じがあつて途中で交替などすると違和感が強いでしよう。神戸初演、神戸発信の演劇を創作しようとしているのですから、ロングランシステムについても神戸発信で新工夫がなければよろしいですね。出演する俳優の都合もありますからじっくり考えてみましょう。



熱の入った舞台稽古が続く（東京・帝国劇場にて）

う顔ぶれになるのか白紙です。さきほどのロングランのこともありますし、といって「仮名手本忠臣蔵」を台本にして創作する訳ですから、この古典に負けない内容と顔ぶれにして、神戸発信の期待にそいたいと目下充電中です。ご支援下さい。

——やはり、あけてびっくり玉手箱ですね（笑声）神戸っ子人すべて諸手をあげて楽しみにしています。

豊かな創造力

独創的スペクタカル

夢のように美しい舞台

「NINAGAWA・忠臣蔵」——

こんな演劇が神戸初演、神戸発信で誕生しようとしています。新年の何よりの大きなお年玉ではないでしょうか。これが起爆剤となり、劇場都市への花道への力強い華麗な開幕となるを祈念して、その日を待望して——。

〔附記〕

蜷川氏・オリビエ賞候補に!!

ロンドンの国立劇場で上演された蜷川幸雄演出の「NINAGAWA・マクベス」と「王女メディア」に関して英國ローレンス・オリビエ賞演劇部門の候補にノミネートされています。俳優の嵐徳三郎氏、舞台美術の妹尾河童氏も同様に名前が上がっています。演劇部門で日本人のノミネートは初めてのことと大変に権威のある演劇賞で、日本人でこれまでにはダンス部門でバレエの森下洋子さんが受賞しているだけです。朗報を待ちたいものです。

★新春特集／神戸・劇場都市への可能性を探る〈その2〉

舞台美術家

朝倉 攝



「一つの劇場が出来る」とで
神戸がもつと大胆に
変わることもある――

劇場は“異空間”である。祝祭空間といつてもいい。であるなら異空間を可視のものとする舞台美術家は司祭といえよう。我々は司祭の手によって異空間へと導かれる。朝倉攝さんは世界的に活躍されている司祭である。その舞台美術は観る者を魅了してやまない。

多忙なスケジュールの合間、東京・元代々木の自宅にお伺いし、舞台づくりと街づくりなどについて話をお聞きした。

――朝倉先生は軽く五、六年のロングランも

――朝倉先生はお仕事の上で、海外の諸都市へよく出掛けおられますか。

朝倉 私はニューヨークが一番好きです。ニューヨークはすごく変化している部分がある反面、古い建物も残っている。ヨーロッパもそうなんですねけれど、古さと新しさが同居している部分が面白いと思うんです。それは街づくりだけの問題ではなくて、そこに生活している人々が、どういうことを考え、どういう仕事をしているかということとも関連性があると思うんです。

――特にニューヨークで気に入っている場所がおありですか。

朝倉 気に入っている場所というよりも、ダウンタウン

も面白いし、ミッドタウンも面白い。最近開発されたところですが、コンバサーアベニューというところは、昔は本当に汚なかったのですが、それが今は大変きれいになっているんです。今、流行の先端のような格好になっているんですが、そこのなんかちょっと気障っぽくて、あまり好きじゃないんですけど、やはりそれなりの面白さはあると思いますね。

――今、どこの都市でも古いものと新しいものを、どうバランスをとつて行くかが問題になっています。神戸は近代都市としてはたかだか百二十年の都市ですが、それでも古い建物がどんどん壊されてゆくんです。

朝倉 ニューヨークはミラノやローマと比べると全然歴史がありませんから、せいぜい日本の明治時代ぐらいに建った建物ばかりですね。しかし、やたら無意味に壊すというようなことはないような気がします。

――日本では、どちらがお好きですか。

朝倉 私は東京生まれの東京育ちですから、やはり東京が好きですね。地方はあまりよく分からないです。もちろん京都なんかも古い歴史があって、それはそれで素敵だと思います。神戸はそういう意味では、エキゾチックな感じがしますね。

――港町ですからハイカラの伝統があります。

朝倉 ありますね。長崎にしても、昔から海外と交流をしていた町ですから、それなりの面白さがありますね。

—— 神戸では来年（昭63）秋に、新神戸駅前に建築中の新神戸オリエンタルホテルの中に劇場が出来ます。

朝倉 劇場が出来るというのは、神戸に限らずいいことだと思います。

—— ニューヨークでも、プロードウェイは魅力ですね。

朝倉 あそこは、ちょっとその数たるやすごいですからね。でもニューヨークだけではなく、ロンドンなんかでも劇場はかなりあります。それも単に劇場があるというだけではなくて、劇場へ行く人々の、いわば姿勢というのがしっかりとっています。

日本だと学生時代とか若い頃には芝居をよく観ても、大人になってしまったら、そういうことは余計なことになって観なくなる人が多いのではないか。男性も女性も芝居を観る層は、非常に薄いと思いますね。そりや好きな人は観てらっしゃいますが、全体のパーセンテージは低いと思います。もつとも、その原因に大人の鑑賞に耐える芝居がない

ということもありますね。ロンドンなんかで芝居を観ても、とにかく役者が上手ですよ。

—— 外国では観客の層が厚いようですね。

朝倉 ロングランが多いです。今でも「キャッツ」をやっています。ニューヨークでも五、六年は軽くやりますからね。

—— やれるというのがすごいですね。それはやはり人間が多いということではなくて、観る側の姿勢なんでしょうか。朝倉 そうでしょうね。日本では、みんな物事を表面だけやっていて、心から夢中になれないというか、スタイルだけというか、流行としてだけしか取り入れてないんじゃないですか。

舞台づくりも街づくりもますべー・シックなところから—— 私たちも「王女メディア」とか「近松」とか「マクベス」とか、いろいろ観ていただきましたが、いずれも舞台装置がすごく大仕掛けですね。

街づくりにも、こういった仕掛けがあつた方がいいと思われるのですが、先生のお考えはいかがですか。

朝倉 うーん、どうでしょうね。あまり感じませんね。

街にそういう仕掛けがあつたら、やはり人間はどんどんエスカレートしてゆくから、これでもか、これでもかってことになり、果てはああでもない、こうでもないということになりかねないと思います。

ただ街 자체や都市計画とかがシアトリカルになることはいいことだと思うんですが。

シアトリカルということは、單に奇をてらうということではなく、本当に人間の生活自体の問題だと思うんです。

街を劇場のようにしろとおっしゃっても、劇場をつくるハードの部分、建築家の方なんかも、ほとんど劇場をご存知ない方がやってらっしゃいますからね。創り手の人があもつと使い手の人たの話を聞いていただきないと、たとえばロンドンにはナショナルシアターというのがありまして、その中に三つの劇場があるんですが、ジョンベリという大変有名な舞台装置家がおられて、その方が劇場づくりにサジェクションをやっていらっしゃいます。この方は日本の第二国立劇場も見に来ておられました。こういう人がいないと駄目なんですね。

今度神戸に出来る劇場が、どういう形のものになるか、私は非常に期待しているんです。

—— 先生は現在のお仕事を長くやってらっしゃいますが、その魅力といいますと……。

朝倉 三十年近くやっていますが、魅力といつのは、まあ、皆で一つのものを創り上げることが出来るということうじゃないでしょうか。芝居というものは生きものですから、その日によって出来が違うと思うんですよ。固定していながら面白いんですよ。

—— 舞台は総合芸術ですね。街づくりにしても、皆が一つの街を活き活きさせることに力を合わせてゆくなり、これは舞台づくりと似ているところもあるかな、ということは思っているのですが。

朝倉 たとえば、またニューヨークの話になるのですが、

向こうは区画整理がきちんと出来ているわけですよね、碁盤の目のようですね。ちゃんとベーシックなものが出来ているんですね。日本の場合には、いくらシアトリカルにしようとか言つても、こっちに行けばどこに行つやうか分からぬような道に、ちっちゃなマッチ箱のような火を点ければすぐ燃えちゃうような家を建てるわけですよ。それでは根本的に駄目なんじゃないかと思います

ね。表向ききれいになつたとしても、きれいになつたうちには入らない。

たとえば神戸の街をブルトーザーでみんなぶつ壊してね(笑)。まず区画整理からやるとか、そういうようなことが出来ればね、それはシアトリカルにも何にでも出来ると思うのですが。上にきれいなものを着せても、下に洗濯していないものを着ていてはね。これは神戸だけじゃなくて、どこでもそうだと思いますよ。京都の街があれだけ整然としているのは、碁盤の目のようになつてゐるからですよ。

まず、そういうベーシックなものからやらないと、上辺だけやつても仕様がないんじゃないかなと、私も、いつもそう思います。横浜とか、川崎なんか今新しく街づくりをやつていますが、そういうところはきれいに出来るのではないかですか。

新しい劇場によつて神戸が変わることを期待したい

—— 神戸もポートアイランドとか六甲アイランドは、人工島なので、ベーシックなところから出来ています。かなり外国のような街になつて來たというか……。

朝倉 問題は、それが日本でどういうかたちで発展していくかですね。外国の、よ、街といつことになつてゆくかですね。外国の、よ、街といつことになつてゆくのでは困りますね。

—— バンクーバーのガスタウンというところは、大変うまく街づくりをやつていますね。きれいですよ。

—— 具体的にはどういうところが素晴らしいのですか。

朝倉 港町なんですが、古い建物を新しく再生していますね。シャレたレストランとか、ファッショナブルな店になつていています。つまり、人真似をしないといふことでですね。バンクーバーはバンクーバーの生き方といつたものを打ち出していますからね。日本の場合は、どうもイミテーションといったものが多いですね。

—— 神戸はこれからもいろいろと変わってゆくと思



元代々木の仕事場には大きな猫が二匹、泰然と暮している。不思議な空間だ。

ますが、最後に神戸へのメッセージ。

朝倉 神戸は、あまり臆病にはならないで、どんどんと

こういうことをやろうと思ったことをやつたらいいのではないかと思うんです。やはり、そういうところから出

発してゆかないと……。それはバランスの問題があるかも分かりませんが、本質的な大胆さみたいなものが必要です。本質的に変えてゆくということですね。そういうことをやってゆかない限り変わつてゆかないと思うんです。

—— 变えてゆくということは難しいですね。パリが今、大改造をやっていますね。

朝倉 そうですね。でもあれは、古い建物には補強をしたりして、日本のようにバカバカしくはぶつ壊さないですね。

私は街としては、ミラノも好きですね。落ち着いていて、それでいてファッショナブルで素敵ですね。ひと口で言うと、ミラノは大人の街ですよ。

—— だから素敵なファッショングが出て来る。

朝倉 そうですね。ミラノのファッショングは素晴らしいと私は思っています。

—— やはりそういう街だからファッショングも面白くなりますね。大胆というか……。神戸も劇場が出来るということで、多くの方がこの街に集まつてくるようになればと願っています。

朝倉 いい劇場が一つ出来ることによって、神戸も変わるものも分かりませんね。新幹線だと新神戸駅のすぐのところですから、いい芝居ならそこまで観に行く人も多いと思います。

私もぜひお伺いしますよ。劇場だけではなく、神戸は食べるものの美味しいですしね（笑）。

来年の秋を今から楽しみにしています。